

# 南会津・袖沢南沢小屋場沢～大殺山～片貝 沢駄尾沢下降～片貝沢 1050m 付近まで遡行 ～片貝沢下降

増田 寿代

■山行年月日:2021年9月19～20日

■メンバー:増田寿代、小沼充範、  
石川貴大

■コースタイム:

9/19 ゲート(5:15)～小屋場沢出合  
(8:00)～大殺山(12:30-13:00)～片貝沢  
出合(14:00)～幕場(15:00)

9/20 BP(7:45)～下部の大ナメで大休止  
(11:30-12:15)～バックウォーター(12:25)

9月19日(日)晴れ

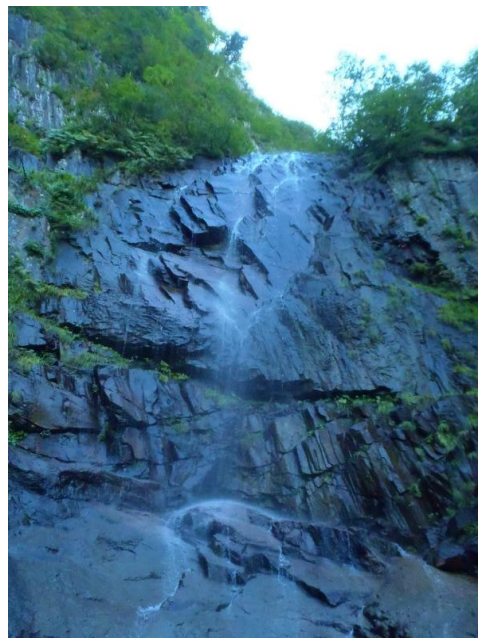
前日は17時過ぎにトンネル出口のゲート前に三台集合。ゲートは遠隔操作と思いついていたが、六方さんに電話すると、奥さんが車でやってきて、内側から操作して開けて下さった。颯爽と中に入るが、遊覧船の船着き場に出てしまいバックで戻る羽目に。電力館の方に登っていくのでしたね・・・(ー;)。

無事に石川さんの車をデポし、ゲートで待っていてくれた奥さんに船代と計画書をお渡しする。袖沢林道入口の駐車場に移動し、テントの中で呑みだすが、非常に暑くてサウナ状態。雨は小雨～霧雨程度で夜中まで降り続いた。蒸し暑さと蚊の羽音と、ダム駐車場方面から聞こえてくる怪しい雄叫びが気になりな

なか寝付けなかった。

寝不足で4時起床。荷分けや身支度をしていると何台かやって来て、みんな暗い中ヘッドランプを付けて出発して行った。ゲート迂回の道は知っているようだ。フロントガラスに計画書が見えるように置いてある車があり、超有名なガイドさんの丸山岳への山行であることを知る。

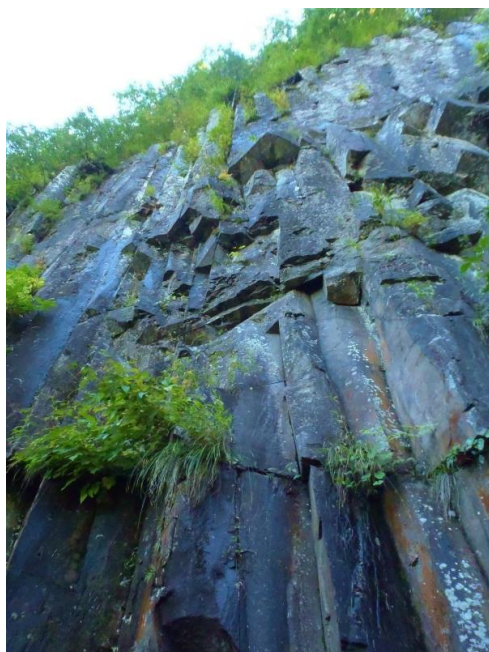
5時15分、薄暗い中出発。石川さん先導で迂回路やショートカットでダム下にすんなり出る。南沢出合で休憩。2005年の8月にここでワングルの同期達と二泊



小屋場沢の大滝

もしたっけ。(袖沢が増水で渡れず停滞。)その後の豪雨であちこち崩壊したらしい林道は修復されてとても綺麗になっている。南沢に入り、工事現場を過ぎると、林道は完全に消失している部分もあり、沢を歩いて行くことにした。台風一過の青空が広がっていく。今日は気温も高く快適な沢日和。

小屋場沢は出合は小川のように小さい流れ。入渓すると早速 3m くらいのナメ滝。つるっと行きそうなので右から巻く。ホールド豊富で登れるという 40m 滝は、途中までは行けそうだが、上の方は無理そうなのでこれも右から巻く。そして次の 40m 滝が今回の核心だ。登山大系では右岸の電光形のバンドを登ると書いてあるが無理ですね。1997 年の浪漫パーティーは何処をどう登ったか書いてくれている。2019 年のわらじパーティーは滝



大滝上の柱状節理を見学



光溢れる小屋場沢

の右のヤブ壁をロープを出して登ったと書いてある。それも無理そうなので我々は右の藪に入る。大岩が邪魔で右によけ藪の急斜面を登る。だいぶ登ってから小沼さん先導でトラバース&下降。無事に 20 分程で沢に戻れた。ここの巻きにかかる時間が今後のルートに影響するので、スムーズに越えられて良かった。大滝の上まで戻って景色を楽しみ、見事な柱状節理を見学する。

陽射しが沢まで降りてきて、ナメがえんえんと続く眩しい小屋場沢をのんびりと登っていく。水量がとても少ないため、苔が発生してしまっている所もあるが、やはりナメは美しい。1050m 付近の右岸の高台にブナの大木があり、びっしりと上までキリツケがあった。『晴天』の文字だけははっきりと読めた。ここは残雪期にはとても良い所なのかもしれないし、昔は泊まり場だったのかもしれないと思う。かなり上

部までナメが続きサクサク進む。振り返れば綺麗な形の毛猛岳。藪も薄めで苦勞なく稜線へ。大殺山には 12 時半過ぎに到着。



大殺山

山頂からは春の連休に行った坪入高幽梵天から丸山岳そして村杉岳までも望める。こんなに景色の良い山頂だったとは、三回目にして初めて知った。次は残雪期に訪れてみたい。山頂で記念撮影後、片貝沢へと下り始める。二年前のわらじでの集中の際、私は片貝沢往復Pで赤布ベタ打ちしてきたにも関わらず、下山開始 5 分で間違えて南への尾根に乗ってしまった。今回は気を付けながら下るが、やはり尾根の分岐が分からない。

まあどこから下ろうと駄尾沢に降りられればよいので、適当に沢に向かって下る。片貝沢本流の出合まで特に何もなく下降できる。途中、熊と遭遇したが、逃げる後ろ姿だけ目撃。

昨年のカツエノ嵩沢の山行で、片貝沢を遡行した際に素晴らしいブナ森を見た。今回はそのブナ森で泊まりたく、幕場を求めて片貝沢本流を遡行する。駄尾沢出合からすぐと思っていたのは間違いだった。なかなかブナ森は遠く、石川

さんもお疲れのようだし、快適そうな河原で泊ろうかと提案する。しかし小沼さんもやはりブナ森の快適な幕場に記憶があるらしく、空身で偵察に行ってくれた。まあここで泊るかなと薪を集めたり、釣りエサにする虫を石川さんに捕まえてもらったりして待つ。しばらくすると小沼さんが幕場を発見して戻ってきた。ここから 10～15 分ほどの所とのこと。行ってみれば、確かに昨年ここは良い所だねと言った所だった。ブナの大木があり、ここもキリツケがビッシリ。ただいま 15 時過ぎ。予定通り来られて良かった。

フライとツエルトを設営して、薪集めはお二人にお任せし釣りに出かける。さきほど石川さんが捕まえてくれた一匹のカマドウマだけで三匹ゲットできたが、最後はあまりにも小さくリリース。まあまあ大きさと小ぶりの二匹で、三人では十分でしょう。幕場に戻り、焚火を起し、夕暮れのブナの森でまったりと過ごす。中秋の名月は二日後に控えた綺麗な月がブナ森の後ろに昇る。塩焼きも美味しい。今晚は熟睡。



幕場のブナはキリツケがびっしり

9月20日(月)晴れ

今日は三時間もあれば下れる。のんびり起きて8時前に出発。光溢れる片貝沢を下っていく。大きな滝は三つ。巻くのが面倒なら懸垂しようかと思っていたが、一つ目はハングしてそうなので左岸から巻いてガレ場を下る。コレ懸垂したら滝をモロに浴びていました。二個目は右の草付きを懸垂。三個目も右から懸垂したがちょっとハング&ぬめりであり良くない。もう少し滝よりに下り、一段目の上に出た方が良さそう。のんびりと休みながら下ってきたが、片貝沢もあとわずか。11時半、平らなナメが広がる気持ちの良い所で大休止。二年前ここを通った時、天気の良い日にここでこのんびりできたら最高だと思った。念願叶って昼寝タイムとなる。ちょうどお昼時で石川さんはカップラーメンを食べている。12時15分に出発して10分でバックウォーターに到着。カヌーの

二人組がテントを張っていた。六方さんも約束の時間より30分も早いのにちょっと来てくださった所だった。

白石沢スラブやら片貝沢左岸のスラブなどを眺めながら、船は奥只見湖を走っていく。15分で六方さんに到着。ちょっとお茶でもとのお言葉に甘え、冷たい麦茶をいただく。大殺山の追悼登山の資料を拝見したり、お話しを伺ったりと有意義な時間。窓が額縁で奥只見湖の景色が絵のようだと石川さん。六方さんは本当に素晴らしい立地だ。いつか泊ってみたい。

帰りはかもしかの湯へ。小沼さんは桜枝岐方面へ、石川さんは長岡にお買い物、と今後の行動は三人三様なので、お風呂に入る前に解散。私はこのんびりと温泉に浸かり、深雪の里に寄り道し、ノンストップで北関東の自宅まで走ったのでした。



お昼寝タイム